

## 「文化財 IPM コーディネータ」資格の創設について

平成 23 年度に公益財団法人文化財虫菌害研究所では「文化財 IPM コーディネータ」資格を創設しました。

近年、博物館、美術館、図書館、資料館、文書館等においては、薬剤に頼るだけでなく適切な環境管理をあわせて行うことによって虫菌害を防除する IPM（総合的有害生物管理）が推奨されています。

文化財に関する IPM は、主に清掃・温湿度調整などの環境管理による物理的防除と薬剤や炭酸ガスなどを用いた化学的防除を合理的に組み合わせて行い、文化財に加害する害虫をなくし、カビによる文化財への目に見える被害を防止することを旨とするものです。

このような「文化財 IPM」の具体的な方法・作業は、対象となる文化財の種類や収蔵・展示施設の状況などによってさまざまです。これを継続して適切に行っていくためには博物館・美術館・図書館等において展示、収蔵品の保管・管理、施設の維持・管理に携わる方、それらの業務を支援するボランティア、文化・文化財行政担当者および文化財に関する生物被害防除業務に携わる方等で、それぞれの立場で自ら「文化財 IPM」を実行したり、文化財の所蔵者等からの相談に応じて助言・提案などをしたりすることができる人材（「文化財 IPM コーディネータ」）が必要であると考えられます。

「文化財 IPM コーディネータ」は、虫やカビあるいはそれらの調査法・防除法・施設管理などについての正しい知識・技能を身につけていることが必要ですが、それらのすべてに関する専門家であることを必要とするものではなく、それらの概要および「文化財 IPM」全体についての正しい理解のもとに必要なときに各分野の専門家と相談しながら適切に「文化財 IPM」を進めていくことができる人と考えています。

当研究所では、この「文化財 IPM コーディネータ」の人材育成とともに「文化財 IPM」の普及をめざして、講習・研修・試験を経て一定のレベルに達した方については「文化財 IPM コーディネータ」資格認定をしております。

「文化財 IPM」に関する業務に従事されている方、関心をお持ちの方多数のご参加をお待ちします。

## 「文化財 IPM コーディネータ」資格の概要

「文化財 IPM」の実践あるいは指導・助言に必要な知識・技能を修得するために当研究所が行う講習・研修と試験を受けていただき、一定のレベルに達したと認められる場合に「文化財 IPM コーディネータ」資格を認定し、登録します。資格登録までの手続、要件等は次のとおりです。

### 1 講習・研修および試験

次の講習等の受講、試験に合格することにより資格の登録申請を行うことができます。

- ① 「文化財 IPM コーディネータ資格取得講習会」(②の「試験」合格の前 1 か月以内に行われるものに限る。)を受講していること。
- ② 「文化財 IPM コーディネータ資格取得試験」に合格していること。
- ③ 「文化財の虫菌害・保存対策研修会」(②の「試験」合格の日の後 2 年間にわたるものに限る。)を受講していること。

### 2 登録等

- (1) 上記 1-①～③の要件を充足し、申請により「文化財 IPM コーディネータ」資格を認定し登録します。
- (2) 「文化財 IPM コーディネータ」には「文化財 IPM コーディネータ証」を交付します。

### 3 更新

- (1) 「文化財 IPM コーディネータ」資格は、5 年ごとの登録更新が必要です。
- (2) 登録更新は、事前（更新を要する日の前 2 年以内）に「文化財の虫菌害・保存対策研修」(例年 6 月頃行われているもの)を受講していることを要件とします。

### 4 受講料等

1～3 の講習・試験・研修・登録および登録更新の手数料は次のとおりです。

「文化財 IPM コーディネータ資格取得講習会」(1-①) 受講料：20,000 円（会員は 18,000 円）

「文化財の虫菌害・保存対策研修会」(1-③) 受講料：28,000 円（会員は 25,000 円）

「文化財 IPM コーディネータ資格取得試験」 受験料：5,000 円

「文化財 IPM コーディネータ」登録料：5,000 円

「文化財 IPM コーディネータ」登録更新料：5,000 円

## 第 8 回文化財 IPM コーディネータ資格取得のための講習会と試験開催要項

### 1 主催

公益財団法人 文化財虫菌害研究所

### 2 共催

国立民族学博物館

### 3 時期

平成 30 年 12 月 11 日（火）～13 日（木）

### 4 会場

国立民族学博物館 第 5 セミナー室  
大阪府吹田市千里万博公園 10-1

### 5 対象

博物館・美術館・図書館・資料館・文書館等において展示、収蔵品の保管・管理、施設の維持・管理に携わる方、それらの業務を支援するボランティア、文化・文化財行政担当者および文化財に関する生物被害防除業務に携わる方等

### 6 定員 90 名

受講・受験希望者が定員を超える場合は、現在、上記 5 の方等を優先し、あるいは同一団体から複数の希望者がある場合は人数調整をお願いする等により最終的な受講・受験者を決定することとしますので、ご承知おきください。なお、一団体から 2 名以上希望する場合は、予め優先順位を決めて希望書を提出してください。

### 7 講習・試験の日程と内容

裏面のとおりに。

### 8 受講料・受験料

受講料 20,000 円  
当研究所維持会員は、18,000 円  
(団体会員所属役員を含む)

受験料 5,000 円

### 9 希望申込受付

- (1) 平成 30 年 10 月 31 日まで（厳守）に「受講・受験希望書」（別添）に所定事項を記入して下記へお送りください。

〈受講・受験希望書送付先〉

〒160-0022 東京都新宿区新宿二丁目1-8  
新宿フロントビル 6 階

公益財団法人 文化財虫菌害研究所

電話 03 (3355) 8355

FAX 03 (3355) 8356

- (2) 希望者の中から当研究所で受講・受験者を決定し、11 月上旬までに受講・受験の申込み方法等を通知します。（今回受講・受験していただくことができない方にもその旨を通知します。）
- (3) 本資格の正式な登録には、本講習会の受講と試験の合格後に「文化財の虫菌害・保存対策研修会」（平成 31 または 32 年度実施のもの）の受講も必要です。（ただし、今年度に限り、平成 30 年度実施のものも含まれます。）

### 10 撮影、映像使用について

今回の講習会については、放送大学の講義科目「博物館概論」（担当講師 本田光子）で使用するため、講義と見学の様子を放送大学が撮影することになっています。撮影された内容は、2019 年 4 月から放送大学の番組（BS231, 232ch）として放送され、併せて学生向けのインターネット配信（ストリーミング）も行われます。

撮影は、受講生のプライバシーに配慮し、研修の妨げにならないようにいたしますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

### 11 昼食について

2 日目 12/12（水）は、会場が休館日です。（万博公園も休園です。）園内、館内のお店は全てお休みですので、昼食は必ずご準備くださるようお願いいたします。

12月11日(火)

13:00~ 開講の辞

13:05~14:05 文化財のIPM概論

IPM(総合的有害生物管理)の成り立ち、文化財における生物被害防除の歴史、「文化財IPM」とは何かなど、「文化財IPM」を進めるにあたって考え方の基礎になることとお話します。

公益財団法人文化財虫菌害研究所 理事長 三浦定俊

14:05~15:05 文化財の生物被害と加害生物  
およびレベルコントロールについて

文化財の生物被害を未然に防ぎ、また対策を実施するためには、文化財を加害する生物についての理解が欠かせません。本講義では、文化財の生物被害をおこす生の概要をお話します。

九州国立博物館 博物館科学課長 木川りか

15:05~15:15 休憩

15:15~16:15 IPMから見た博物館等の施設管理

展示室・収蔵庫では虫がいな事、カビによる目に見える被害がないことを目指し、博物館等の建物において実施可能な抑止技術と管理方法について解説します。

東京文化財研究所 保存科学研究センター長 佐野千絵

16:15~16:30 休憩

16:30~ 国立民族学博物館の殺虫処理施設

国立民族学博物館で導入している複数の殺虫処理施設について紹介します。

国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 准教授 日高真吾

17:00~ 殺虫処理施設見学

12月12日(水)

10:00~11:00 温湿度環境の測定と解析

博物館・美術館・図書館における温湿度の測定方法と測定結果の解析について、また最適な環境に維持するための空調技術と空調管理のポイントについて説明します。

東京文化財研究所 元客員研究員 呂俊民

11:00~12:00 虫の調査と環境の解析

文化財IPMの考え方により文化財を生物被害から守るために、文化財に加害する虫について生態や被害の発見、調査方法および対策の立案が必要です。ここでは、虫の種類・発見・調査およびまとめ方を理解し予防管理への移行を勉強します。

一般財団法人環境文化創造研究所 主席研究員 川越和四

12:00~13:00 昼休み

13:00~14:00 カビの調査と環境の解析

文化財にみる微生物について解説し、文化財で被害の多いカビの特性についてふれます。さらにどのようなカビが問題となるかをお話し、文化財施設でのカビ調査法を紹介いたします。最後に、環境解析とその評価についてふれ、文化財のカビ制御とIPMについてまとめます。

NPO法人カビ相談センター 理事長 高鳥浩介

14:00~14:10 休憩

14:10~15:10 防除処理に関する基礎知識

防除処理を実施する際には、各処理方法の特徴を把握し、目的にあったものを選択する必要があります。また、用法用量等を守り正しく処理を行わなければ十分な効果が得られないこともありますので、注意点についても解説したいと思います。

公益財団法人文化財虫菌害研究所 研究員 岩田泰幸

15:10~15:20 休憩

15:20~16:20 IPMの体制づくり

文化財IPMをすすめるためには、多様な人の目と行動が必要です。学芸員だけでなく事務系職員そして業務受託者、ボランティア等立場の異なる人々が、協同でIPMに取り組むことができるような仕組み作りの基本となる考え方をお話します。

一般財団法人環境文化創造研究所 顧問  
九州国立博物館 名誉館員 本田光子

16:20~16:30 休憩

16:30~ 殺虫処理施設見学

12月13日(木)

10:30~11:30 試験

- 試験項目
- (ア) 文化財IPMの概論と組織に関する問題
  - (イ) 有害生物(虫・カビ)に関する問題
  - (ウ) 生物被害防除処理の基礎知識に関する問題
  - (エ) 空調と施設管理に関する問題